2013年10月作成（新様式第1版）

日本標準商品分類番号　872331

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2008に準拠して作成

消化酵素剤

パンクレアチン原末「マルイシ」

Pancreatin「Maruishi」

日本薬局方
パンクレアチン

剤形	散剤
製剤の規制区分	該当しない
規格・含量	1g中　日局　パンクレアチン　1g
一般名	和名：パンクレアチン 洋名：Pancreatin
製造販売承認年月日 薬価基準収載 ・発売年月日	製造販売承認年月日：2008年10月7日（販売名変更による） 薬価基準収載年月日：2008年12月19日（販売名変更による） 発売年月日：2013年10月11日
開発・製造販売（輸入） ・提携・販売会社名	販売元：ニプロ株式会社 製造販売元：丸石製薬株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	ニプロ株式会社　医薬品情報室 TEL 0120-226-898　FAX　06-6231-7910 医療関係者向けホームページ http://www.nipro.co.jp/

本IFは、2013年4月作成のケースの記載に基づき改訂した。
最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ
http://www.info.pmda.go.jp/にてご確認ください。

IF利用の手引きの概要－日本病院薬剤師会－

1．医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書(以下，添付文書と略す)がある．医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には，添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある．

医療現場では，当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている．この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した．

昭和63年に日本病院薬剤師会(以下，日病薬と略す)学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」(以下，IFと略す)の位置付け並びにIF記載様式を策定した．その後，医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて，平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた．

更に10年が経過した現在，医薬品情報の創り手である製薬企業，使い手である医療現場の薬剤師，双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて，平成20年9月に日病薬医薬情報委員会において新たなIF記載要領が策定された．

2．IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し，薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な，医薬品の品質管理のための情報，処方設計のための情報，調剤のための情報，医薬品の適正使用のための情報，薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として，日病薬が記載要領を策定し，薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる．

ただし，薬事法・製薬企業機密等に関わるもの，製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない．言い換えると，製薬企業から提供されたIFは，薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに，必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている．

［IFの様式］

①規格はA4判，横書きとし，原則として9ポイント以上の字体(図表は除く)で記載し，一色刷りとする．

ただし，添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には，電子媒体ではこれに従うものとする．

②IF記載要領に基づき作成し，各項目名はゴシック体で記載する．

③表紙の記載は統一し，表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし，2頁にまとめる．

［IFの作成］

①IFは原則として製剤の投与経路別(内用剤，注射剤，外用剤)に作成される．

②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する．

③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される．

④製薬企業の機密等に関するもの，製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない．

⑤「IF記載要領2008」により作成されたIFは，電子媒体での提供を基本とし，必要に応じて薬剤師が電子媒体(PDF)から印刷して使用する．企業での製本は必須ではない．

［IFの発行］

①「医薬品インタビューフォーム記載要領2008」(以下，「IF記載要領2008」と略す)は，平成21年4月以降に承認された新医薬品から適用となる．

②上記以外の医薬品については，「IF記載要領2008」による作成・提供は強制されるものではない．

③使用上の注意の改訂，再審査結果又は再評価結果(臨床再評価)が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ，記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される．

3．IFの利用にあたって

「医薬品インタビューフォーム記載要領2008」においては，従来の主にMRによる紙媒体での提供に替え，PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている．情報を利用する薬剤師は，電子媒体から印刷して利用することが原則で，医療機関でのIT環境によっては必要に応じてMRに印刷物での提供を依頼してもよいこととした．

電子媒体のIFについては，医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている．

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが，IFの原点を踏まえ，医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ，IFの利用性を高める必要がある．

また，随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては，IFが改訂されるまでの間は，当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等，あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに，IFの使用にあたっては，最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する．

なお，適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることがあり，その取扱いには十分留意すべきである．

4．利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい．しかし，薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により，製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある．IFは日病薬の記載要領を受けて，当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから，記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない．

また製薬企業は，IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり，今後インターネットでの公開等も踏まえ，薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある．

（2008年9月）

目　次

Ⅰ．概要に関する項目 1
　１．開発の経緯 1
　２．製品の治療学的・製剤学的特性 1
Ⅱ．名称に関する項目 1
　１．販売名 1
　２．一般名 1
　３．構造式又は示性式 1
　４．分子式及び分子量 1
　５．化学名（命名法） 1
　６．慣用名、別名、略号、記号番号 2
　７．ＣＡＳ登録番号 2
Ⅲ．有効成分に関する項目 2
　１．物理化学的性質 2
　２．有効成分の各種条件下における安定性 2
　３．有効成分の確認試験法 2
　４．有効成分の定量法 2
Ⅳ．製剤に関する項目 3
　１．剤形 3
　２．製剤の組成 3
　３．懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意 3
　４．製剤の各種条件下における安定性 3
　５．調製法及び溶解後の安定性 3
　６．他剤との配合変化(物理化学的変化) 4
　７．溶出性 4
　８．生物学的試験法 4
　９．製剤中の有効成分確認試験法 4
　10．製剤中の有効成分の定量法 4
　11．力価 4
　12．混入する可能性がある夾雑物 4
　13．治療上注意が必要な容器に関する情報 4
　14．その他 4
Ⅴ．治療に関する項目 4
　１．効能又は効果 4
　２．用法及び用量 4
　３．臨床成績 4
Ⅵ．薬効薬理に関する項目 5
　１．薬理学的に関連ある化合物又は化合物群 5
　２．薬理作用 5
Ⅶ．薬物動態に関する項目 5
　１．血中濃度の推移・測定法 5
　２．薬物速度論的パラメータ 6
　３．吸収 6
　４．分布 6
　５．代謝 6
　６．排泄 6
　７．透析等による除去率 7
Ⅷ．安全性（使用上の注意等）に関する項目 7
　１．警告内容とその理由 7

２．禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む） 7
３．効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由 7
４．用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由 7
５．慎重投与内容とその理由 7
６．重要な基本的注意とその理由及び処置方法 7
７．相互作用 7
８．副作用 7
９．高齢者への投与 8
10．妊娠、産婦、授乳婦等への投与 8
11．小児等への投与 8
12．臨床検査結果に及ぼす影響 8
13．過量投与 8
14．適用上の注意 8
15．その他の注意 8
16．その他 8
Ⅸ．非臨床試験に関する項目 8
１．薬理試験 8
２．毒性試験 8
Ⅹ．管理的事項に関する項目 9
１．規制区分 9
２．有効期間又は使用期限 9
３．貯法・保存条件 9
４．薬剤取扱い上の注意点 9
５．承認条件等 9
６．包装 9
７．容器の材質 9
８．同一成分・同効薬 9
９．国際誕生年月日 9
10．製造販売承認年月日及び承認番号 9
11．薬価基準収載年月日 9
12．効能又は効果追加，用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容 9
13．再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容 10
14．再審査期間 10
15．投薬期間制限医薬品に関する情報 10
16．各種コード 10
17．保険給付上の注意 10
ＸＩ．文献 10
１．引用文献 10
２．その他の参考文献 10
ＸⅡ．参考資料 10
１．主な外国での発売状況 10
２．海外における臨床支援情報 10
ＸⅢ．備考 10
その他の関連資料 10

Ⅰ．概要に関する項目

１．開発の経緯

本品は膵液中に含まれる多種酵素の混合物で、膵アミラーゼ、トリプシン、キモトリプシン、カルボキシペプチダーゼ、リパーゼ、リボヌクレアーゼその他多くの酵素を含む。
膵アミラーゼは、Bouchardat(1845)がヒトの膵液中にその存在を証明し、Meyer(1947)により結晶化された。たん白分解酵素の存在はPurkinje(1836)、Corrisart(1856)らにより証明され、Kühn(1867)によりトリプシンと命名され、Kunitz、Northrop(1932)によって結晶化された。Vernon(1913)は膵液中に乳凝固作用の強い、ほかのたん白分解酵素の存在を認め、Kunitz、Northrop(1935)により結晶化され、キモトリプシンと命名された。膵リパーゼはステアプシンとも呼ばれ、Bernard(1856)によって見出された。
本品は酵素剤として、たん白質、炭水化物及び脂肪の消化を行う[1)]。
丸石製薬株式会社では、パンクレアチン「マルイシ」として1986年2月に承認を取得した。
なお、医療事故防止対策に基づき、2008年12月に販売名をパンクレアチン「マルイシ」からパンクレアチン原末「マルイシ」に変更した。

２．製品の治療学的・製剤学的特性

・本品は、食用獣、主としてブタの膵臓から製したもので、でんぷん消化力、たん白消化力及び脂肪消化力がある酵素剤である。
・本品は通例、適当な賦形剤で薄めてある。
・本品の効能・効果は、消化異常症状の改善である。
・本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないが、過敏症としてくしゃみ、流涙、皮膚発赤等の過敏症状が報告されている（頻度不明）。

Ⅱ．名称に関する項目

１．販売名

(1) 和　　名　パンクレアチン原末「マルイシ」
(2) 洋　　名　Pancreatin「Maruishi」
(3) 名称の由来　「パンクレアチン「マルイシ」」からの変更は、日本薬局方収載名および厚生労働省通知(薬食安発第0602009号平成16年6月2日付「医薬品関連医療事故防止対策の強化･徹底について－医療用医薬品の販売名の取扱いについて」)による。

２．一般名

(1) 和名（命名法）　パンクレアチン（JAN）
(2) 洋名（命名法）　Pancreatin（JAN）　　JAN：日本名
(3) ス　テ　ム　不明

３．構造式又は示性式

該当しない

４．分子式及び分子量

該当しない

５．化学名（命名法）

該当しない

6．慣用名、別名、略号、記号番号
該当しない

7．ＣＡＳ登録番号
8049-47-6

Ⅲ．有効成分に関する項目

1．物理化学的性質
(1) 外観・性状
白色～淡黄色の粉末で、特異なにおいがある。
(2) 溶解性
該当資料なし
(3) 吸湿性
該当資料なし
(4) 融点（分解点），沸点，凝固点
該当資料なし
(5) 酸塩基解離定数
該当資料なし
(6) 分配係数
該当資料なし
(7) その他の主な示性値
該当資料なし

2．有効成分の各種条件下における安定性
酸性又は強アルカリ性により失活する[1)]。

3．有効成分の確認試験法
該当しない

4．有効成分の定量法
日局「パンクレアチン」定量法による。

(1) でんぷん消化力

（ⅰ）基質溶液：でんぷん消化力試験用バレイショデンプン試液を用いる。ただし、pH5.0の1mol/L 酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液10mLの代わりにパンクレアチン用リン酸塩緩衝液10mLを加える。

（ⅱ）試料溶液：本品約0.1gを精密に量り、適量の氷冷した水を加えて振り混ぜ、更に氷冷した水を加えて正確に100mLとする。この液10mLを正確に量り、氷冷した水を加えて正確に100mLとする。

（ⅲ）操作法：消化力試験法「1.でんぷん消化力試験法」の「1.1 でんぷん糖化力測定法」により操作する。

(2) たん白消化力

（ⅰ）基質溶液：消化力試験法「2.たん白消化力試験法」の「2.3（ⅱ）基質溶液 2」を用いる。ただし、pHは8.5に調整する。

（ⅱ）試料溶液：本品約0.1gを精密に量り、適量の氷冷した水を加えて振り混ぜ、更に氷冷した水を加えて正確に200mLとする。

（ⅲ）操作法：消化力試験法「2.たん白消化力試験法」により操作する。ただし、沈殿試液はトリクロロ酢酸試液Bを用いる。

(3) 脂肪消化力

（ⅰ）乳化液：ポリビニルアルコールⅠ18g及びポリビニルアルコールⅡ2gを量り、消化力試験法「3.脂肪消化力試験法」により調製する。

（ⅱ）基質溶液：消化力試験法「3.脂肪消化力試験法」に規定するものを用いる。

（ⅲ）試料溶液：本品約0.1gを精密に量り、適量の氷冷した水を加えて振り混ぜ、更に氷冷した水を加えて正確に100mLとする。

（ⅳ）操作法：消化力試験法「3.脂肪消化力試験法」により操作する。ただし、緩衝液はpH8.0のリン酸塩緩衝液を用いる。

Ⅳ. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、規格及び性状

1)剤形の区別

粉末

2)性状

白色～淡黄色の粉末で、特異なにおいがある。

3)規格

1g中　日局　パンクレアチン　1g

(2) 製剤の物性

逃避率	集合率	粒度分布
23.4%	0%	42～100mesh：約3% 100～140mesh：約7% 140～200 mesh：約36% 200mesh pass：約54%
見かけ容積	pH	
1.93～1.43（mL/g）	―	

(3) 識別コード

該当しない

(4) pH，浸透圧比，粘度，比重，無菌の旨及び安定なpH域等

該当資料なし

2. 製剤の組成

(1) 有効成分(活性成分)の含量

1g中　日局　パンクレアチン　1g

(2) 添加物

該当しない

(3) その他

該当しない

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当資料なし

4. 製剤の各種条件下における安定性

最終包装形態の製品を用いた長期安定性試験（室温（気密）、3年）の結果、性状、純度試験、乾燥減量、強熱残分及び定量法において規格の範囲内であった[2)]。

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

６．他剤との配合変化（物理化学的変化）
酸性又は強アルカリ性により失活する[1)]。

７．溶出性
該当資料なし

８．生物学的試験法
該当しない

９．製剤中の有効成分確認試験法
該当しない

10．製剤中の有効成分の定量法
「Ⅲ．５．有効成分の定量法」参照

11．力価
＜参考＞
本品1g当たり2800でんぷん糖化力単位以上、28000たん白消化力単位以上及び960脂肪消化力単位以上を含む。

12．混入する可能性がある夾雑物
該当資料なし

13．治療上注意が必要な容器に関する情報
該当資料なし

14．その他

Ⅴ．治療に関する項目

１．効能又は効果
消化異常症状の改善

２．用法及び用量
通常成人1回1gを1日3回食後に経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

３．臨床成績
(1) 臨床データパッケージ（2009年4月以降承認品目）
該当しない
(2) 臨床効果
該当資料なし
(3) 臨床薬理試験：忍容性試験
該当資料なし
(4) 探索的試験：用量反応探索試験
該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当資料なし

Ⅵ. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群

消化酵素剤（ジアスターゼ等）

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

本品はプロテアーゼ、アミラーゼ、リパーゼ、トリプシン、キモトリプシン、カルボキシペプチダーゼ、リボヌクレアーゼなど多くの酵素を含有し、たん白質、炭水化物及び脂肪の消化を行う。しかしトリプシン、アミラーゼ、リパーゼなどは胃液によって活性を失うため、腸溶性皮膜をほどこして、小腸内で作用を発揮させるほうがよい[1)]。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

Ⅶ. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

該当資料なし

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

該当資料なし

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

２．薬物速度論的パラメータ

(1) コンパートメントモデル

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

３．吸収

該当資料なし

４．分布

(1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁への移行性

該当資料なし

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

５．代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素(CYP450等)の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

６．排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7．透析等による除去率
該当資料なし

Ⅷ．安全性（使用上の注意等）に関する項目

1．警告内容とその理由
該当しない

2．禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）
禁忌(次の患者には投与しないこと)
(1) 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者
(2) ウシまたはブタたん白質に対し過敏症の既往歴のある患者

3．効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由
該当しない

4．用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由
「Ⅴ．治療に関する項目」を参照すること。

5．慎重投与内容とその理由
該当しない

6．重要な基本的注意とその理由及び処置方法
該当しない

7．相互作用
(1) 併用禁忌とその理由
該当しない
(2) 併用注意とその理由
該当しない

8．副作用
(1) 副作用の概要
本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。
(2) 重大な副作用と初期症状
該当しない
(3) その他の副作用
過敏症(頻度不明)：くしゃみ、流涙、皮膚発赤等の過敏症状を起こすことがあるので、このような場合には投与を中止すること。
(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧
該当資料なし
(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無背景別の副作用発現頻度
該当資料なし
(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法
・その他の副作用として過敏症が報告されている（頻度不明）。
（「**Ⅷ．８．(3) その他の副作用**」参照）

９．高齢者への投与
該当しない

10. 妊娠、産婦、授乳婦等への投与
該当資料なし

11. 小児等への投与
該当資料なし

12. 臨床検査結果に及ぼす影響
該当資料なし

13. 過量投与
該当資料なし

14. 適用上の注意
使用時：
(1)投与に際しては、直ちに飲み下すように注意すること。［小児が誤って本剤を大量に停滞させたため、口内炎及び口腔内潰瘍を起こしたとの報告がある。］
(2)投与に際しては、粉末を吸入しないように注意すること。［本剤の吸入により気管支痙れん、鼻炎を起こしたとの報告がある。］

15. その他の注意
該当資料なし

16. その他

Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

１．薬理試験
(1) 薬効薬理試験（「Ⅵ. 薬効薬理に関する項目」参照）
(2) 副次的薬理試験
該当資料なし
(3) 安全性薬理試験
該当資料なし
(4) その他の薬理試験
該当資料なし

２．毒性試験
(1) 単回投与毒性試験
該当資料なし
(2) 反復投与毒性試験
該当資料なし
(3) 生殖発生毒性試験
該当資料なし
(4) その他の特殊毒性
該当資料なし

Ⅹ．管理的事項に関する項目

１．規制区分
該当しない

２．有効期間又は使用期限
使用期限：3年（表示の使用期限を参照すること。）

３．貯法・保存条件
吸湿注意
30℃以下で保存すること。

４．薬剤取扱い上の注意点
(1) 薬局での取り扱いについて
「３．貯法・保存条件」参照
(2) 薬剤交付時の注意（患者等に留意すべき必須事項等）
「Ⅷ．安全性（使用上の注意等）に関する項目　14．適用上の注意」参照

５．承認条件等
該当しない

６．包装
500g

７．容器の材質

包装単位	容器			備考
	形状	材質	色調	
500g	袋	アルミ	銀色	紙ケース（白色印刷）

８．同一成分・同効薬
［同一成分］パンクレアチン
［同 効 薬］ハイフル配合顆粒　等

９．国際誕生年月日
不明

10．製造販売承認年月日及び承認番号
製造販売承認年月日：2008年10月7日（販売名変更による）
承認番号：22000AMX02240
（旧販売名）パンクレアチン「マルイシ」　承認年月日：1986年2月25日

11．薬価基準収載年月日
パンクレアチン原末「マルイシ」（新販売名）：2008年12月19日
［注］パンクレアチン「マルイシ」（旧販売名）：1955年9月1日
経過措置期間終了：2009年8月31日

12．効能又は効果追加，用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容
該当しない

13. 再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容
第21次再評価結果公表年月日：1983年4月22日

14. 再審査期間
該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報
本剤は、投薬（あるいは投与）期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

販売名	HOT(9桁)番号	厚生労働省薬価基準収載医薬品コード	レセプト電算コード
パンクレアチン原末「マルイシ」	104620529	2331006X1217	620009242

17. 保険給付上の注意
該当しない

ＸⅠ．文献

１．引用文献
1）第十六改正日本薬局方解説書，C3562-C3565，廣川書店（2011）
2）丸石製薬株式会社　社内資料

２．その他の参考文献
厚生労働省　第十六改正　日本薬局方

ＸⅡ．参考資料

１．主な外国での発売状況
該当しない

２．海外における臨床支援情報
該当資料なし

ＸⅢ．備考

その他の関連資料

ニプロ株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号

1310PI-1A